

絶す。

一四七八

【顯如上人書札案留】  
芳札遂披覽候。仍就御入國之儀加州輩馳走之儀示給候。他家助言之段堅加斟酌候。不相限此儀上者、更以非疎意之通御分別所希候。就中太刀一腰・馬一疋給候。欣悅至候。隨而從は一腰一蹄推進之候。猶下間上野法橋可申候。穴賢々々。

二月廿八日

(顯如)

崑山修理大夫殿

二月廿八日。本願寺顯如、佐々木義弼等に、崑山義綱の能登入國に際し加賀の門徒の助力を求めたるを謝絶す。

【顯如上人書札案留】

一四七九

就崑山匠作入國之儀、重而御札令披見候。仍可被及行、其砌加州輩馳走之儀承候。惣別他家之儀助言事無之候。更非疎意候。宜様御演説肝要候。猶下間上野法橋可令申候。——。

(永祿十年) 二月廿八日

佐々木右衛門督殿

一四八〇

【顯如上人書札案留】  
就崑山匠作入國之儀、重而芳翰之通令披見候。近日可被及行條、加州輩馳走之儀承候。總別他家助言之儀、不能其□□候。聊非疎略候。此等之趣宜預御心得候。尙下間上野法橋可申候。——。

二月廿八日

(顯如)

拔關齋

四月廿四日。熊來續兼、山城東福寺栗棘庵に、崑山義綱が能登入國の期の將に近きにあるべきを報す。

【栗棘庵文書】 山城

一四八一

尙々來月十日歸國必定候。取亂候間不能懇筆候。可被下御免候。以上。

【顯如上人書札案留】

一四八二

乍御報尊書、殊更被寄思食、鳥目貳十疋被懸御意候。誠御懇之儀共、過分之至難申盡令存候。必以參上、萬々御禮等可申請、何へ茂被成御心得御傳達奉頼存候。仍義綱歸國之儀、來月十日ニ相定候。如御使者申入候、以外取亂候間、以人申入候義難成候條、可被成其御心得候。委細之儀、御使者へ申入候之間、可被成御尋候。目出度本望之上、御下國奉待候。御隱居就、在京、爰元ニ在事ニ候。當月之末ニ坂本へ罷下候。其内ニ与風致祇候、可得御意候。恐惶謹言。

四月廿四日

續 兼 在判

栗棘庵 參 御報

熊來金左衛門尉

栗棘庵 參 御報

續 兼

六月五日。本願寺顯如、越前北莊堀江景忠に、その加賀一揆に黨して朝倉氏に對し善戰退城せるを賞す。

(世に傳ふるこの歳三月堀江景忠が朝倉義景の諒解を得て能登に去れりとするものは、本文書に據れば誤なるを見るべし。)

九月十一日。能登守護崑山義隆の被官遊佐續光等、笠松但馬守に、當知行等を安堵せしめてその來仕を求む。

【笠松文書】

一四八三

當知行ニテ所并被官人屋敷等之事、如前々不可有相違候。然者早々御下專一候。尙高田方可有演説候。恐々謹言。